

EU-欧州連合は始め16カ国で始まり、21カ国3億4000万人となり、現在25カ国4億5000万人と増大しております。

先進国ヨーロッパの少子化が急速に進んでいることへの危機感も拡大統合の一つの理由であります。

同じ先進国でもアメリカは現在2億8000万人、そして今後10年後には3億8000万人に増加すると予測されております。

先進国が軒並み少子化へと進む中で、同じ先進国なのになぜアメリカが人口増加していくのか。それは多くの移民を受け入れた多民族国家であり、合わせてヒスパニックが多いからであります。

「少子化不況」と言う「語彙」はまだありませんが、少子化不況は「家族収入の減少」「消費購買力の減少」「設備投資の減少」「税収の減少」「公的年金等の増加」「労働力の不足」等様々な悪影響が起こってきます。

こうした次世代を予測してEUは何をしたかといえは、『人口が減って、市場が縮小するのだからこれまでの様な過当競争をやめるべきだ。・・・とEU（欧州）の小売業界は新規大型店出店、不当販売、営業時間、休日を規制しました』

○今後の少子化対策

今までも一日本の風土、規模には米国型の自由競争（弱肉強食）は馴染まなく、このまま競争を続ければ、共倒れとなります。結果としてコミュニティ、地域文化、よき伝統は衰退し、合わせて商店街が亡びることによって治安、青少年問題が悪化し、更には高齢者の生活はきわめて不便なものになります。こうした状況を傍観するのではなく、これら問題点を主張して君津市だけでも弱肉強食の経済から、相互に助け合い共生できる商工会議所にしたいと願っています。

○家族単位の少子化対策

アメリカに比べて日本の高齢者家族の預貯金、資産は非常に多く、老後のゆとりは日本の方が豊かであります。アメリカは核家族化が進み、老後は1人～2人で暮らす家族が多いので、一人当たりの生活コストが高くなってしまいます。日本の世帯の6割近くは親子2代、3代で同居しているために生活コストが非常に低くなっていると言われます。

日本の家族制度は、何千年来親子仲良く助け合い、思いやりを大切に出来たすばらしさがあります。少子化時代を生きていく上の大切な「ちえ」であります。これからはより一層大切に育てていきたいものです。